

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2019年度 第1回

2019年7月27日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価では、学校が、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の関係者を委員に選
び、「学校が実施した 2018 年度の自己評価結果の報告」と「2019 年度の取り組み」に対する評価
を依頼する。委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言
する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2019 年度 第 1 回学校関係者評価委員会の実施

2018 年度の「自己評価報告書」を作成し、委員会を開き、評価項目毎に結果を報告した後、委
員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。続いて、2019 年度の重点目標について報告した。

- ・開催日時：2019 年 7 月 27 日（土）午後 2 時～3 時 30 分
- ・場 所：読売理工医療福祉専門学校 502 教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【委 員】

- ・渡部俊一：OB・理工専校友会会長
- ・米田尚美：保護者・放送映像学科 2 年
- ・湯浅孝雄：地域住民・慶応仲通り商店会・会長
- ・中村孝之：団体等・日本建築衛生管理教育センター
- ・羽場宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・伊藤大輔：企業等・臨床工学系学科
- ・大庭尚子：企業等・介護福祉学科

【学校側】

- ・千葉康文：理事長
- ・吉見淳一：専務理事
- ・渡邊敏章：校長
- ・松井敏宏：事務局長
- ・佐塚正樹：理事
- ・水落清治：校長補佐
- ・小川貴之：建築系学科長
- ・加瀬俊広：放送映像学科長
- ・秋田谷徳靖：電気電子学科長
- ・沢田雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我辰也：介護福祉学科長
- ・久保真樹：総務室次長

(敬称略・順不

同)

4. 委員からの意見・提案（評価点：4点満点）

[1] 2019年度の取り組みに関する意見

(1) 教育理念・目的・育成人材像等（4.0）

- ・留学生増加に伴う語学力のUPと、現場での実践教育の充実。
- ・工業・医療・福祉についてこれからも必要とされる分野である。専門知識はもちろんだが、社会で必要なスキルの修得をめざし、人材育成をしてほしい。また留学生の受け入れや、職業実践専門課程などは引き続き強化してほしい。
- ・卒業後社会人として自立できる基礎技術実践力、コミュニケーション力を中心とした読売式教育メソッドの効果は出ていると思います。学生から社会人への心構え、意識改革、卒業後の展開調査、ドロップアウトした卒業生等の再就職相談室設定等が必要かと思われます。
- ・現場が求める人物像に沿った理念となっている。
- ・「建学の精神」のもとに高度な教育理念・教育目標を掲げ、それに向かって各学科が努力されていること、また、その結果を検証し新たな改善方を導きだされていることは評価されるべきと考えます。しかしながら、専門学校将来を考えると「社会人のための生涯学習の場」は非常に重要なキーワードであり、東京都専門人材育成訓練に落選されたことは非常に残念であり、更なる努力をされることを期待いたします。

(2) 学校運営（3.7）

- ・移転の前後で考えられる問題を事前にしっかり注出し、対策を立ててスムーズな移転を目指してほしい。また移転やそれに関する情報を世間にしっかり認識してもらうように努めてほしい。
- ・今後さらに増加する留学生の確保はコンプライアンス、言葉、文化の違いなど、大変だとは思いますが将来の学校運営に必ずプラスになると考えます。専任担当を置いた留学生相談室を設けたことは良いと思います。
- ・学生の募集には更なる努力を続けていかないと18歳人口の減少に対応できないと考える。
- ・読売新聞社の後ろ楯のもとに、組織の運営面、地域社会との連携、コンプライアンス等適切に運営されていると考えます。

(3) 教育活動（3.7）

- ・教員の研修をもっと積極的に実施してほしい。
- ・個々の先生方は頑張っているが、教育不足だと思われる。専任の教員を増やし、生徒と話す時間を増やせればと思う。また、実習以外にも現場見学を増やせばいいと思う。
- ・読売式メソッドの人間力の教育が大事だと考えます。
- ・実務者の育成に特化しており、目的が明確なため、学生の学びも深まっていると思う。卒業後のキャリア形成・活躍実績の把握はもう少し方策を考えていく必要性あり。
- ・各学科の「教育活動」の自己評価の結果を見ると、学科間により若干の差異はあるものの概ね適切と判断できると考えます。ただし、教育活動の課題として「教員の自己研鑽の時間が取れない」「専任教員の移動が多くレベル確保が難しい」「カリキュラムの形骸化」といった問題点が複数の学科で挙げられているのは気になることです。是非、改善に向けて努力していただければと考えます。

(4) 教育成果（3.7）

- ・退学率の低減（入学時の確認が必要）。

- ・卒業生の動向を把握し、実習や就職といった面で在校生への還元ができる体制があるとい
- い。
- ・現在、卒業生が企業の専門職中間管理職での活躍を目にします。また、就職後ドロップアウトした話も聞きます。話を聞きますと、大半が職場の人間関係によるものです。原因は人間力だと思います。働いて報酬を得る仕事を楽しみはざありません。学生の時と違います。組織で生きる人たちは全員人間関係でストレスを抱えています。そのあたりの意識改革が特に必要と考えます。
- ・学校に在籍しているうちに取得できる資格は取得できるように、積極的な支援を今後も続けてほしい。
- ・学修成果向上のために各学科が努力されていることは評価できると考えます。資格取得率が複数の学科で減少傾向にありますが、これは学生の資質にも影響されることなので、今後は各学科が挙げられている「今後の改善方策」の実行に向け努力していただければと考えます。

(5) 学生支援 (3.3)

- ・留学生に対する相談室を開設したことは非常に良いと思う。
- ・学生との面談を強化し、情報を得ることで支援につながると思われる。また、卒業生への支援も強化できれば、学校のアピールになると思われる。
- ・外国人担当者がおり、学生のフォローや就職先の調達も含め、総合的な支援が行われており安心した、学校生活が遅れる様サポート体制が整っている。
- ・学科によって差異はありますが、カウンセラーや保護者と連携して学生支援にあたられていることは評価できると考えます。学校教育において最も重要な要素の一つであると思いますので、担任教員、専任教員が一体となって取り組んでいただければと考えます。なお、除籍・退学率が増加傾向にあるのが気になります。

(6) 教育環境 (3.5)

- ・文京区への移転、新校舎、楽しみです。
- ・実習機器は高価な物が多いため、年度ごとに計画的に整備していく必要があると思われる。
- ・新校舎への移転は組織全体の意識改革のチャンスです。チャレンジのチャンスでもあります。
- ・来年3月に新校舎の完成により、充実してくると予想します。
- ・新校舎への移転に伴い、移転準備室を設置して教室の仕様・実習室等機材設備の準備等教育環境の整備に取り組まれていることは評価できると考えますが、実習設備・機材の老朽化を挙げている学科も複数あるので、今後は、教育に支障をきたさないよう計画的に実習設備・機材の更新がなされればと考えます。

(7) 学生の受け入れ募集 (3.3)

- ・留学生の増加。
- ・少子化の中で、大学との区別を明確にすることが大事である。短い年数で費用も少し安く、また、教員との距離が近いといったところで、アピールする事が大事であると思われる。
- ・5年先、10年先を見据えて留学生の受け入れ態勢、教育の仕組みの更なる充実を望みます。
- ・HP等のメディアの利用は、他の学校より優れている。少子化（18歳人口の減少）への取り組みについて、従来の方法に新校舎完成のことをアピールした工夫を続けてほしい。

- ・国際交流として、留学生を対象に独自の日本語筆記試験の実施や留学生支援ルームの開設等留学生の受け入れを推進していること、また、留学生の在籍管理に関して入国管理局から「適正校」に選定されたことは評価されるべきと考えます。また、日本人学生についてもSNSを活用した新たな学生募集を検討されるなど積極的に取り組んでいると考えます。

(8) 財務 (4.5)

- ・情報の公開が、適性に行われる事が大事であると思う。移転費用を以下に抑えられるかが課題であると思う。
- ・新校舎の設備のレンタルなどによる収入増。
- ・詳細状況が分かりませんので、自己評価の結果を参考としました。

(9) 法令等の遵守 (4.0)

- ・法令の遵守と個人情報の保護が大事であると思われる。
- ・業界での卒業生の法令違反は聞いておりません。
- ・詳細状況が分かりませんので、自己評価の結果を参考としました。

(10) 社会貢献・地域貢献 (3.3)

- ・原地の地域商店会の交流がなくなり、文京区での新しい活動に期待します。
- ・東京都臨床工学技士会などと協力し合い、公開講座等を行っていただければいいと思われる。
- ・新校舎への移転に伴い地元イベント等とのコラボレーションを積極的に取り組む必要があります。
- ・新校舎に移ってから、新しい地域との関係構築は大変かもしれないが、芝の商店街との関係性も保ちつつ、学校の機能や学生の力を積極的に活用できると良い。
- ・各学科の自己評価結果を見ると、社会貢献・地域貢献に関する具体的な目標や方策が学校全体として共有されていないように感じます。

[2] 2019年度重点項目の取り組み

- ・留学生相談室があり、留学生に対するしっかりとした支援がある。
- ・2020年春の新校舎移転が楽しみです。
- ・教育の無償化などが進む中で、専門学校の方針をしっかりと持ち、大学との差別化を図ることが大事。移転の計画もしっかり立てて行えればいいと思われる。
- ・理工学院の生徒・留学生への対応が、常に前向きに取り組んでいる点、また問題点に対してもすぐに対応理解している点が良いと思います。
- ・留学生の除籍、退学、留年をなくすために留学生相談室の活用の推進。
- ・「学校の評価」や「学生募集」に直結するものと考えられるので、卒業生の就職先企業との連携も視野に、卒業生の動向が把握できる体制が構築されればと考えています。
- ・教育活動の評価の中でも触れましたが、専任教員の意見として「教員の自己研鑽の時間が取れない」「専任教員の移動が多くレベル確保が難しい」といった意見もあり、その原因が物理的な問題であるのか意識的な問題であるのか定かではありませんが、その対策が必要と感じました。
- ・教育に直結する問題ですので、最も経済的で効果的な整備計画をたてて実践していただければと考えます。

[3] 2018年度に関する意見と、教育活動・学校運営の改善に活用する内容

- ・退学率の低減。入学時の面接の充実が必要。コミュニケーション不足。

- ・少子化の中で、留学生の受け入れが今後重要になっていくと思われる。留学生の受け入れの態勢強化を行っていくことが重要であると思われる。
- ・新校舎スタジオ設備などの有効活用の検討（外部への貸し出しなど）。

[4]2019年度に関する意見と、教育活動・学校運営に関して気忌憚のないご意見

- ・現場での教育充実（見学会等、積極的に応援します。機会をみて相談してほしい）。
- ・卒業生の動向を把握し、会社見学などに積極的に取り組む事で、就職率を上げていくことにつながると思う。卒業生をいい意味で頼っていくことが大事かと思う。
- ・2020年新校舎への移転に伴い、大きく教育環境も変化すると思われます。環境の変化をチャンスと捉え、留学生の教育の仕組みの充実化を目指す。
- ・学生の学びのバラつきを少しでも縮め、実務に就くための学習を併行しながら、コミュニケーション力、観察力、創造力、論理的な考え方等も含めた教育活動を行なってほしいです。

5. 2019年度の重点目標

2019年度の重点目標は以下としたい。

- (1) 留学生の問題を入り口からしっかり見てゆく。
- (2) 退学率が14%になっている。退学者をなくすための指導。
- (3) 卒業生の動向を調査してゆく。どのくらい定着率があるのか。次回途中経過を報告する。

6. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、「2019年度の間評価に対する意見・提案」と合わせ、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上